

令和5年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる教育を推進する」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める	今年度の 重点目標	「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協同の学びで自他を高める教育の推進】コースに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】クラウドブック等を活用した効率的な学習環境整備を進める
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 （ 10 ）月		
評価項目	評価の具体項目 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 自立を促す教育の推進	○生徒一人当たりの取得資格数 A1.7件以上 B1.5件以上 C1.2件以上 D1.0件以上 E1.0件未満 ○就職内定率(県内)、進学合格率(県内) ○自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境と答えた生徒・教員の割合 ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒・保護者の割合 ○生徒の生活状況や学習状況等について保護者と連携していると答えた保護者の割合	○資格検定は概ね予定通り実施 合格率63.5%(R4) 一人あたり平均取得資格数1.62件(R4) ○高度な資格検定にも挑戦し取得者増 (スーパー農林水産業士、アグリマスタープラチ、電気工事士等) ○就職内定率(3月)100% 県内84.6% 進学合格率(3月)100% 県内56.4% ○インターンシップ・企業等見学は予定通り実施 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導 生徒 H30 78.1%→79.3%→82.5%→85.5%→R4 84.4% ○掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒 H30 62.8%→62.8%→68%→60%→R4 64.6% 教員 H30 45.8%→52.7%→50.9%→58.4%→R4 62% ○服装や身だしなみが整う 生徒 H30 90.4%→92%→90.6%→84.4%→R4 81.8% 保護者 H30 59.3%→67%→67.3%→61.6%→R4 58.4% ○Googleクラスルーム・マチコメール等を活用し連絡徹底 ○保護者と連携 保護者 84%(R4)	○高度な資格検定に挑戦する生徒の増加 ○生徒一人当たりの取得資格数 1.7件以上 ○就職内定率 100%、進学合格率 100% ○インターンシップや企業・上級学校見学等を通してふるさとで働き学ぶ意識を高める ○進路学習活動を通して勤労観・職業観を高め、自らのキャリアを設計する基礎を育てる ○ともに学ぶ喜びと「学ぶ責任」の意識を高め、適切な学習環境を自らつくる ○規律ある学校生活を通して「見られる自分」を意識し、規範意識・社会の一員としての自覚を高める ○保護者や地域との連携を推進すること で、生徒とともに育てる体制を整える ○部活動の振興を図ることで心身の健全な育成を目指し、学校生活を豊かで充実したものにする	○ICT等活用した指導や補習、再受検指導で合格率向上を目指す ○上位資格取得に向け早期の指導体制を確立 ○インターンシップ、企業・上級学校見学は実状に合った実施を目指し実施時期・内容等検討 ○進路学習プログラム、キャリアパスポート等活用した計画的・系統的な進路LHRを実施 ○適性検査等により要支援生徒を把握し個別支援体制を構築、校内で情報共有 ○教室は可燃ゴミ箱のみ設置しゴミの減量化に努める ○授業開始時など日常的に全職員で規律を呼び掛け、保護者連絡を密にし一層の協力・信頼関係を構築 ○Googleクラスルーム・マチコメールの有効活用 ○生徒会活動や部活動、ボランティア等生徒が主体的に取組めるよう支援	①前期の資格検定は概ね予定通り実施、上位資格にも挑戦 ②インターンシップ、企業・学校見学は実施予定 ③適性や進路希望を生かす進路指導 生徒83.6%(R4 88%) ④3年選択授業で自己PRや志望理由書指導を生徒の進路に合わせて実施 ⑤「Handy進路指導室」を活用し家庭でも求人票の閲覧可能 ⑥掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒64.4%(R4 68%)、職員60.7%(R4 59%) ⑦さわやかマナーアップ、交通安全運動等では生徒会と連携し法令遵守を育成 ⑧服装や身だしなみが整う 生徒87%(R4 87%) ⑨授業参観日(マチコメール・Googleフォーム)実施、保護者22名参加 ⑩部活動の活性化に向け部紹介、見学、体験、部結成の日程を工夫して実施	B	①合格に向け検定問題の研究・工夫(ICT・補習・社会人講師等)、不合格者対応等 ②インターンシップは課題研究等を活用し事前・事後指導を実施 ③就職試験への体制構築を含め、次年度に向けた進路プログラムの練直し ④次年度に向けchromebookを活用した求人公開を模索中 ⑤今後も教室ゴミ箱の容量減、ゴミの持帰り・分別等ルールを徹底し推進 ⑦マナーアップは保護者にも協力依頼 ⑧授業規律、服装頭髮、遅刻等について校内連携、保護者協力を得ながら継続指導 ⑨授業参観日は年度内3回予定 ⑩部活動加入率向上に向けた方策を検討
2 協同の学びで自他を高める教育の推進	○地域と連携して学校外の教育力を積極的に取り込んでいると答えた教職員の割合 ○湖陵フェスタ来場者アンケートで鳥取湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合 ○人権や命を大切にすることを育てる教育が行われていると答えた生徒の割合 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」の視聴状況	○湖陵フェスタは縮小開催(来場約500名) ○地域交流事業はほぼ予定通り実施、報道で紹介してもらうなど学校PRに繋がる ○地域と連携、学校外教育力活用 教員 H30 79.6%→90.9%→80.3%→92.3%→R4 94% ○人権教育講演会は生徒の能動的な参加が見られ生徒アンケートも高評価 ○人権や命を大切にすることを育てる教育実践 生徒 H30 73.1%→79%→79.9%→92.3%→R4 81.7% ○2年QUアンケート代替「湖陵版よりよい学校生活のためのアンケート」はSCと分析し生徒面談等に繋げる ○個別の教育支援計画作成の研修会を初開催し職員間で書き方等を共有 ○新規製作した学校紹介DVDやホームページ等を活用し積極的に学校情報を発信 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」の視聴状況は微増	○学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す ○近隣学校や地域に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで、生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする ○地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる ○障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む ○特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う	○湖陵フェスタは来場者が参加しやすく、より楽しめる体験など実施内容等を検討 ○本校の教育資源を活用し地域との交流事業を継続・推進、新規連携先の開拓等も検討 ○保護者が学校行事に参加しやすいよう工夫(PTA総会・湖陵フェスタ時に講演会開催等) ○クラスの実情に即した人権教育LHRに取組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを実践 ○ケタイナ安全使用講習会等SNS関連の使用ルールやマナーについて継続的に学習・指導 ○QUアンケート結果等を踏まえた適切な対応、外部機関との連携、教室環境の工夫等推進 ○生徒の教育相談室利用ルールを明確化し運用 ○学校紹介DVDを製作し中学校説明会等で活用 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」(YouTube)や学校ホームページ、Instagram等の活用による積極的な情報発信を継続	①専門高校フェスタ(4月)、専門高校魅力発信フェア(7月)で体験・販売を実施しPR ②地域と連携、学校外教育力活用 教員90.9%(R4 83%) ③PTA役員と連絡を密にし行事の企画・案内 ④2年人権教育講演会が順延(1/26で調整)、3年LGBT研修会は生徒からも好評 ⑤人権や命を大切にすることを育てる教育実践 生徒82%(R4 88%) ⑥生徒指導関連の行事は計画通り実施(インターナショナル安全使用講習会1月予定、薬物乱用防止教室1月予定、自転車安全講習会4月) ⑦QUアンケート等は予定通り実施、QU活用ミニ講座等で職員間で共通理解 ⑧相談室利用のルール作りや利用生徒へ授業優先の意識付 ⑨学校紹介DVDは中学校進路説明会で活用 ⑩学校HPにスクールビューを新規に開設	B	①湖陵フェスタ(11月)は概ね通常規模・内容で開催予定 ②今後も地域連携による学習成果を校外へ発信、連携が期待できる企業・施設・上級学校等の開拓 ③保護者が参加しやすい工夫(湖陵フェスタでPTA主催研修を開催予定) ④⑤公開人権教育LHRや研修会への保護者参加増に向けPTAとの連携を推進 ⑥警察等外部機関と連携継続 ⑦非常勤講師との共通理解の場を検討 ⑧情報交換会(週1回)に変わる情報共有システムを検討 ⑨DVDは行事を追加し再編集 ⑩学校全体でタイムリーな情報発信
3 学びを創造する力を高める教育の推進	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 ○基礎力診断テストの結果が入学時より向上する生徒の割合 ○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 ○タブレット型端末を使うことで授業に関心をもち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 ○タブレット型端末の活用状況調査結果	○校内公開授業実践は32回(2/3時点) ○授業がわかりやすいように先生が工夫 生徒 H30 69.6%→73.2%→80.7%→79.2%→R4 81.3% ○授業改善に向け日々取り組む 教員 H30 71.2%→81.8%→82.2%→84.6%→R4 90% ○基礎学力定着対策として朝トレや教科連携授業、授業動画配信等を実践 ○基礎力診断テストを年2回から3回に変更 4月より8月に向上した生徒割合 1年43.6%(R3 51%) 2年72.1%(R3 75%) 3年69.4%(R3 62%) ○家庭学習はほぼ毎日 生徒 H30 24.6%→25.9%→31.3%→30.2%→R4 38.6% ○観点別学習状況評価は概ね順調に運用 ○Google研修会(KickstartProgram)、ICT活用公開授業研究会等で職員のスキルアップ ○校内Wi-Fi(アプスポイント)等Chromebook・iPadの学習環境を整備 ○「1年のChromebookは全教科で活用 ○端末で授業に関心、主体的取組 生徒 H30 67.7%→69.7%→69.2%→68.4%→R4 69.7%	○実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する ○ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける ○BYAD「一人一台端末」を有効に活用し、効率的な学習環境を実現する ○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く ○専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す	○校内公開授業実践・授業参観を継続実施 ○基礎学力の定着・学び直し対策として朝学習・放課後等の学習会を継続 ○基礎力診断テスト等校外模試の実施と活用 ○教科担任連絡会を適宜開催し授業状況等を職員間で共有 ○観点別学習状況評価の研究・改善を進め、適正な運用を目指す ○本校ICT活用ポリシーに則した利用方法で、一人一台端末の有効活用を推進 ○生徒の興味関心・意欲を引き出せる効果的なICT活用教材を全教科で研究 ○ICT活用研修会、ICT活用授業アドバイザー招へい事業等で授業力向上を図る ○教職員のタブレット端末の日常的な活用の推進(共用タブレット型端末貸出簿の管理等) ○GoogleWorkspaceによる課題配信等で家庭学習時間の確保につなげる ○専門教科と共通教科の授業連携を継続実施	①校内公開授業実践11回、学校HPで紹介 ②3年学習会・夏季学習セミナーは3年生の参加が減少 ③基礎力診断テストが前年より向上した割合 2年43.2%(R4 43%) 3年57.4%(R4 31%) ④新評価実施2年目、各教科で試行錯誤しながら実施 ⑤タブレット型端末で授業に関心、主体的に取り組む 73.7%(R4 72%) ⑥各教科・分掌でICT活用を推進(小テスト、課題配信、アンケート等GoogleWorkspace利用) ⑦家庭学習はほぼ毎日 生徒35.9%(R4 35%) ⑧先生は授業がわかりやすいように工夫 生徒84%(R4 85%) ⑨授業改善に向け日々取り組む 教員94.7%(R4 89%) ⑩物理基礎など専門教科と共通教科が連携、基礎学力定着に向け実践	B	①授業実践・参観の積極的な呼び掛けを継続 ②2年学習会(10月開始)の充実 ③基礎力診断テストD3層対策を検討 ④他校から情報収集しつつ本校の課題を明らかにし、次年度に向けての必要な改善点を検討 ⑤⑥ICT活用に関する研修会の実施、デジタル教科書の研究、新システム(学習eポートフォリオ「まなびボックス」)導入に向けての検討 ⑦～⑩課題未提出者へ学年・分掌で連携した指導、冬季休業中の課題検討、Chromebook継続活用、他教科との連携授業、少人数授業・TT授業の継続、朝トレ・放課後の学習会等
4 の業務改善	○時間外業務時間数(教職員月平均) H30 18.0→14.1→11.5→11.1→R4 13.6時間 ○年休取得平均 14.5日(目標15日) ○部活動の精選等は継続検討 ○学事システムの日々入力導入で業務負担減 ○職員チャットの積極的活用で連絡等の効率アップ	○時間外業務時間数(教職員月平均) H30 18.0→14.1→11.5→11.1→R4 13.6時間 ○年休取得平均 14.5日(目標15日) ○部活動の精選等は継続検討 ○学事システムの日々入力導入で業務負担減 ○職員チャットの積極的活用で連絡等の効率アップ	○時間外業務時間月平均を昨年度以下とする ○適切な業務改善を継続	○無理のない行事計画(成績締切・会議等)を継続的に検討 ○年休等が取得しやすい環境づくりの推進 ○部活動の精選を中・長期的に検討 ○学事システムによる業務の効率化を推進 ○教職員連絡の端末配信の効率化を推進	①時間外業務時間の半期平均13時間(R4 15時間) ②GoogleWorkspaceの活用(教職員間の連絡・情報共有、生徒への課題配信・アンケート等) ③校内文書共有データベースの導入(業務の迅速化及び公文書管理の適正化)	B	①「百問繚乱」の活用により採点効率を上げ、業務負担の軽減につなげる

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] 60%程度 [40%程度] [30%程度]